中国語文法学事始

『馬氏文通』に至るまでの在華宣教師の著書を中心に

何 群雄著

中国人による体系的な中国語文法研究は『馬氏文通』(1898)に始まる。そのことはもちろん、それ以前の中国に「文法研究」あるいは「言語研究」が全く存在しなかったということではない。「經學の附傭」としての「小學」、「經文」に対する「注釈」という形でそれは行われてきたのであり、また、その代表的なものとして、語の分類における「虚実論」がある。さらには「言語」そのものに関する研究、考察としては、『荀子』の「正名編」などは注目に値するものである。しかしながら、ヨーロッパ的な文法研究という意味では確かにそれは「西学東漸」という大きな流れの中で中国にもたらされたものであったし、その 1 つの終着点（それは始発点でもあるのだが）として『馬氏文通』は位置付けられるであろう。

ヨーロッパでは早くから文法学が確立しており、それは主にラテン語に基づくものであったが、その後、特に宣教師達によって、それは中国語にも応用された。

本書は、18 世紀以降のそのようなヨーロッパ人宣教師による中国語文法研究を取り上げたものである。Varo、Premare、Morrison、Marshman、Edkins、そして馬建忠といった 18 世紀から 19 世紀の在華宣教師による代表的な文法書について、その人物、成書過程、内容、影響関係等々詳しく記述されており、その文献リストや注も含めて、この分野での研究の嚆矢と言ってよいであろう。言うまでもないことであるが、この関係の資料は英語だけでなく、ラテン語やフランス語、スペイン語などの語学力が要求される。氏の粘り強い研鑽のあとが本書から読みとれる。

もちろん、氏の取り上げられた人や書物以外にも、近代欧米人の中国語法研究史で扱うべきものは多くある。また、いわゆる近代における中国語研究書に関する詳細な書目、所在目録の作成等々爲すべき事は山積みである。今後の氏の更なる活躍を期待する次第である。

（内田慶市）

目 次

序章　問題の提起
第 1 部　18 世紀以前のカトリック宣教師の中国語文法学の研究
1章　中国語文法学事始
2章　F. ウァロ及びその『官話文典』
3章　J. -H. M. de プレマールおよびその『中国語ノート』
第 2 部　19 世紀プロテスタント宣教師の中国語文法学の研究
4章　布教勢力の転換
5章　R. モリソンとその『通用漢言之法』
6章　J. マーシュマンとその『中国言法』

7章　J. エディキンズの中国語研究
第3部　宣教師とかかわりのある晩清中国人の中国語文法学の研究
8章　晩清学者畢華珍について
9章　『馬氏文通』とイエズス会
終章　中国語学「近代化」の道程
（A5判、190頁、2,300円＋税、三元社、2000年12月、）

その他の新着図書・論文

単行本

『訳林旧踪』鄒振環 2000.9、江西教育出版社 206頁（近代中国における翻訳書を概説）

『科学旧踪』樊洪業 2000.9、江西教育出版社 155頁（近代中国における科学の誕生と啓蒙について、重要な事件を辿りながら跡づけている）

『禁宮神父——一個意大利楽師和三個大清皇帝』（仏）JACQUES BAUDOUIN 著、高臨訳 2001中国文学出版社 344頁（画家として清王朝に仕えた宣教師を描く小説）

『「革命」的現代性中国革命話語考論』陳建華 2000.12、上海古籍出版社 372頁（「革命」という語を近代思想史研究の角度から考察するもの）

『西方的中華帝国観』M. G. Mason 著、楊徳山他訳 1999.1、時事出版社 379頁

以下は、王渝生編「西学東傳人物叢書」である（p.90の書影参照）。

『勤敏之士——南懐仁』王氷 2000.5、科学出版社 157頁

『中西科学交流的功臣——偉烈亜力』汪晓勤 2000.9、科学出版社 161頁

『傑出的翻訳家和実践家——華蘅芳』紀志剛 2000.5、科学出版社 96頁

『中国近代科学的先駆——李善蘭』王渝生 2000.9、科学出版社 84頁

『傅蘭雅與近代中国的科学啓蒙』王揚宗 2000.9、科学出版社 139頁

『普遍主義的挑戦——近代中国基督教教育研究（1877-1927）』胡衛清 2000.4、上海人民出版社 474頁（近世文化論叢の1冊である）

論文

「『和英語林集成』「和英の部」の見出し語——動詞に関わる統合について」木村一 2000、『国語国文学論考』（小久保崇明編、笠間書院）165-184

「『和英語林集成』（一）の折丁記号」木村一 1999、『ぐんしよ』再刊第45号 Vol.12、No.3：21-29

「「資料」という語について」舒志田 1999、『語文研究』第90号左 59-46

「宇田川榕菴の造語「舎密加」「舎密」の出現と漢語・漢字の選択に関する一考察」菅原国香 1999、『一滴』（津山洋学資料館）第7号 26-48

「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察（II）——字順の変更に関わる訳語の修訂——」金敬雄 2000、『行政社会論集』第13巻第1号 1-14

（90頁に続く）